

この度、新連載の初回で、投稿の機会を頂きました PE 会員の伊藤と申します。私自身、転職の回数は多く、参考にならないかもしれませんが、こういった歩みもあるということ、理解して頂けると幸いです。

1. 最初の転職と挫折？

私のキャリアは、エンジニアリング会社からスタートしました。入社して約 8 年間は、主に中国、日本、米国の EPC 案件にアサインされ、機器設計に暫く携わりました。その間、社外では政策学校で様々な分野で活躍されている方々の話を聞いたり、地域での町おこしプロジェクトも取り組みながら、自分のやりたいことにシフトして行きたいと思うようになりました。

最初の転職は、入社 9 年目で知り合いが立ち上げた再エネベンチャーへの参画でした。事業の立ち上げなど何も知らない状態で、地域に入って、試行錯誤しましたが、1 年も経たないうちに断念し、その後、コンサルティング会社に転職するものの、体調不良になり、3 ヶ月で退職し、エンジニアリング会社に出戻りさせてもらいました。

2. 出戻り後の転職

出戻り後、国内の製薬向け EPC 案件に機器設計としてアサインされ、2 つのプロジェクトも終えて、製薬案件にも慣れてきた頃、改めて、再生可能エネルギーにチャレンジしたい気持ちが湧いてきました。海外のエンジニアの資格は、自分のキャリアを証明する上でも、役に立つと思い、退職する直前に PE 試験を受けて、ケンタッキー州に登録しました。

エンジニアリング会社を退職後、再生可能エネルギー事業会社に転職し、約 5 年在籍中に、バイオマス発電事業会社の立ち上げから運営まで一気通貫で経験することができ、バイオマス以外でも様々な電源の開発やエンジニアリング、操業に携わりました。一方、再エネ事体は、電源の性質上、分散化と M&A による集約化も進み、自分が担当していた電源の部署も維持していくフェーズとなり、昨年転職しました。

今は外資系企業で、新規事業開発や運営における業務改善など、これまでの経験を活かしながら、廃棄物処理事業という新たな分野で取り組んでいます。

転職するにあたり、一貫しているのは、地域で資源が循環する仕組みを作りたい、という思いです。今では、エンジニアの軸を持ちながら、プラント、再エネ、廃棄物という後付けながら一貫したキャリアを歩んでいると思っています。

3. 最後に

私自身、PE を取得した後の転職で、資格があったから採用されたことはないと思います

が、何故 PE を取得したのか問われ、アピールにつながったことはありました。また、PE を取得し、それをきっかけに入会した JSPE では、理事活動や自主的な勉強会等通じて、横のつながりも広がりました。JSPE では様々なバックグラウンドを持った方が大勢います。そういった方々の話しが共有できれば、面白い取り組みになることを期待しています。次は、JSPE の再エネ勉強会で知り合った植村さんにバトンを渡します。



昨夏の家族旅行の一コマ（屋久島、左が筆者）